

事業報告書（案）

1 NPO法人化の経緯

- (1) 2011年11月 1日より、二本松市中町376-1に事務所設置。
- (2) 2011年11月27日、NPO設立総会。併せて、設立記念シンポジウム開催。
- (3) 2011年12月28日、二本松市に対してNPO設立申請
- (4) 2012年 2月28日、NPO設立認証
- (5) 2012年 3月 8日、NPO法人成立（登記完了）

2 事業内容

(1) 有機農業推進、啓発事業

■ 開催日：2011年11月27日

開催場所：福島県農業総合センター

参加人数：約130名

ふくしまネットシンポジウム開催

「ふくしまの循環型農業の再生のために」

～有機農業と原発は共存できない～

- ・チェルノブイリに学ぶ、ベラルーシ視察報告（有機ネット 長谷川浩）
- ・消費者とつなぐ測定検証と復興への取り組み（㈱ジェイラップ代表 伊藤俊彦）

（他）

※これらの様子はUstreamで世界に発信

(2) 農業技術営農支援事業

■開催日：2012年1月22日

開催場所：福島県農業総合センター

参加人数：約140名

福島県の農業再生に向けた技術検討会議

～放射能汚染の実態と今後の作付に向けて～

- ・検証報告1 放射性物質対策についての試験研究成果

(農業総合センター 吉岡邦雄部長)

- ・ 検証報告 2 二本松市 (ゆうきの里東和) 復興プログラムで見えてきた技術検討

(新潟大学農学部 野中昌法教授)

- ・ 集団討論 : まとめ

(茨城大学農学部 中島紀一教授)

(3) 放射能測定事業

- 2012年3月、二本松市と会津若松市の事務所に、ベラルーシ製の放射能測定機器を設置し、会員向けに測定を開始。
- 食品、農業資材等の放射能測定者養成のための講習会を開き、12月6日、1月25日、2月1日、2月8日、3月3日、3月6日に精密機械の取り扱い、放射線測定の原理、結果の解釈と説明、物理学のに関する基礎知識について講義と実習を行った。

(4) 特別事業

- 開催日 : 2012年3月24日~25日

農から復興の光が見える!

福島視察・全国集会~有機農業がつくる持続可能な社会へ~

1日目 (磐梯熱海温泉 : ホテル華の湯)

シンポジウム (交流会)

- ・ 福島県の放射能汚染の実態
- ・ 風評被害の現状と今後の行動、福島と「つながる」ために

※シンポジウム参加者約350名、交流会参加者約230名

2日目 (現地視察)

1コース : 避難区域における農業の現状視察 (飯館村⇒南相馬市)

※参加人数約95名

2コース : 放射能と戦う農業者視察 (福島市フルーツライン⇒二本松市東和)

※参加人数約95名

(5) その他の事業

- ホームページをリニューアル (2011年11月)

<http://www.farm-n.jp/yuuki/>

- 脱原発世界会議に参加 (2012年1月14日~15日)

放射能と向き合う有機ネットの活動を、パネルブースで紹介するとともに、

特別会場では、放射能汚染に関する福島県の現状とそれへの対策を発表、会場からは熱い質問も出されました。

■ 農を変えたい！ 東北集会 in あきた に参加

(2012年1月28日～29日)

大震災と原発事故の悲劇に見舞われた東北農業の復興を、農家、消費者、NPO、行政、研究者などと一緒に考えたいと思い、本集会を開催。

福島県有機農業ネットワークからも、福島県の様子を発表した。

■ 書籍発刊

放射能に克つ農の営み—ふくしまから希望の復興へ

菅野正寿・長谷川浩編著 (コモンズ)

四六判／288 ページ

本体価格 1900 円＋税

2012 年 3 月／2 刷

福島の米や野菜は本当に危険なのか？

土と故郷を愛する農業者を支えなくてよいのか？

報道では伝えられない現状を明らかにし、福島の住民・農業者に寄り添いながら

第一次産業の復興によって脱原発社会を実現する。